

新時代に対応した高等学校改革推進事業 (普通科改革支援事業)

翔びたて柏高！ 丹波からTAMBAへ！！
～地域での学びを自分の未来へつなぐ～

兵庫県立柏原高等学校
令和6年9月26日（木）

I はじめに

1. 柏原高等学校の概要
2. 柏原高等学校の教育目標



～42,000人を超える若者が学び、巣立っていきました～

【旧制中学のあゆみ】

1897（明治30）年 「兵庫県立柏原尋常中学校」として開校 103名入学

1899（明治32）年 「兵庫県柏原中学校」と改称

【高等女学校のあゆみ】

1902（明治35）年 柏原町立の「女子補習科」 25名が入学

翌年 「柏原町立柏原女学校」となる

1908（明治41）年 「氷上郡立柏原高等女学校」となる

【高等学校のあゆみ】

1948（昭和23）年 柏中・高女は合併「兵庫県立柏原高等学校」が開校

1986（昭和61）年 理数コース設置

1987（昭和62）年 普通科単独の高校となる

1997（平成9）年 創立100周年を迎える

2003（平成15）年 理数コースをベーシックサイエンスコースに改組

2007（平成19）年 創立110周年を迎える

2008（平成20）年 ベーシックサイエンスコースを知の探究コースに改組

2014（平成26）年 スーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイト校に指定（文部科学省）～2018年まで

2017（平成29）年 創立120周年を迎える

2018（平成30）年 ひょうごスーパーハイスクール（HSH）に指定（県教育委員会）

2019（令和元）年 地域との協働による高等学校教育改革推進事業[グローバル]に指定（文部科学省）～2021年まで

2022（令和4）年 **新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）に指定（文部科学省）**

2024（令和6）年 「**知の探究コース**」を「**地域科学探究科**」に改組



柏高のシンボル「楠」

○教 育 目 標

「進取創造」「質実剛健」「敬愛和協」の理念のもと、主体的に物事にチャレンジし、多様な価値観を理解し協働する力を備え、人類や地域社会に貢献できる人材を育成する。

○学校経営の重点

「翔びたて柏高！ 丹波からT A M B Aへ！！」 ～地域の学びを自分の未来へとつなぐ～

○柏原高校のミッション

- ・ 地域を支える人材育成
- ・ 全国、世界で活躍するリーダーの育成

○目指す生徒像

- ・ 物事に主体的にチャレンジする生徒
- ・ 多様な価値観を理解し、協働する生徒
- ・ 地域課題解決に寄与する生徒



Ⅱ 令和5年度の成果



1. カリキュラムの決定と3年間のプログラム開発
2. 外部人材を招聘した講演会や探究活動に関する指導
3. 探究発表会の実施
4. 運営指導委員会の体制および取組
5. コンソーシアムの体制および取組
6. コーディネーターの配置および活動内容
7. 成果の普及のための仕組み

【兵庫県立柏原高等学校】地域科学探究科（令和6年度設置）

●「地域科学探究科」

育成する 資質・能力

- ・地域課題を理解し、地域活性化や課題解決に向け積極的に関わることのできる資質・能力
- ・他地域との比較や、世界的な課題との関連を探る活動を通じて多様な価値観を理解できる資質・能力
- ・生活体験や地域での学び、交流から、他者と自分の差異に気づき、差異を生かす方法を考えることができる資質・能力

【特色ある教育活動】

- ・地域を対象とした探究活動の展開、論文作成・発表
- ・英語を含めた表現力を活用した地球規模の課題解決へのアプローチ

令和5年度の成果

総合的な探究の時間の開発

【主な取組】

- ・「丹BAL I」（第1学年）
新たなテキストや講演会等による探究の手法を習得し、ミニ探究から基礎実践探究
- ・「丹BAL II」（第2学年）
「丹BAL I」で培った力を利用し、自己の興味関心に基づいた応用実践探究
- ・「地域課題から世界を考える日」の開催（校内）
「知の探究」発表会（校外）
- ・探究記録集の発行

【課題】

- ・関係機関等との連携
- ・探究活動と各教科の授業との連携

学校設定教科・科目の開発

【主な取組】

- ・学校設定科目「グローバル」の実践
第3学年選択
オンラインによる国際交流
テーマ設定と個人研究の実施
英語によるプレゼンテーション
- ・教科横断型探究の実施内容検討
- 【課題】
- ・研究成果の引継ぎ、担当外の教員との年間指導計画等の共通理解（探究活動との連携）
- ・学校設定科目「ポスター英語」「教科横断型探究」の年間指導計画の作成

成果普及・情報発信

【主な取組】

- ・学校ホームページでの情報発信
- ・他校との発表会、中学校での発表会への参加
- ・校内発表会や地域イベントの新聞掲載
- ・兵庫県立高等学校探究活動発表会への参加、交流
- ・報告書の作成、配布
- ・視察校の積極的な受入れ

【課題】

- ・大学等が実施する発表会、研究会等への参加
- ・オープン・ハイスクールや学校説明会等での中学生への説明
- ・教員レベルでの中学校訪問

教員の意識・資質向上

【主な取組】

- ・研究推進部の設置と教職員の意識・資質向上研修
- ・研究推進部主導による探究的な学習により、生徒とともに教員のスキルアップも目指す

【課題】

- ・探究活動に対する共通理解及び指導技術の向上
- ・コーディネーター、関係機関と連携した探究活動の実施
- ・探究活動と連携した教科指導の研究および試行

コーディネーターの取組

【主な取組】

- ・コーディネーターによる、校内と外部との調整
- ・外部との連携による、新たな探究活動の提案
- ・令和6年度新学科設置に向けた準備での協力
- ・探究活動を行うプログラム開発の協力、支援
- ・探究活動で的確なタイミングで生徒への助言

【課題】

- ・校内外との連携体制の構築
- ・本事業終了後のコーディネーターの確保

関係機関等との連携・協力体制

【主な取組】

- ・探究活動等への外部講師の招聘
- ・運営指導委員会の開催
⇒取組に対する助言、指摘等
- ・丹波市役所、丹波市教育委員会等との連携

【課題】

- ・コンソーシアムの構築に向けた取組

カリキュラムの研究・開発目標

- ①地元の丹波地域をフィールドにして地球規模で活躍する人材を育成するカリキュラムとする。
- ②文理融合型の課題研究とする。
- ③地域の教育資源を活用して地域課題の解決に取り組む学びとする。
- ④探究的な学びを深化させるために、探究に関する学校設定科目及び総合的な探究の時間を計7単位とする。
- ⑤スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーに基づくものとする。
- ⑥教育目標に則した教科横断的で体系的なものとする。
- ⑦探究に関する学校設定科目を生かしたカリキュラムとする。
- ⑧学校設定科目の名称や内容を精査する中で、各教科の配置やバランス等を考慮する。

新学科カリキュラム

第1学年

丹BAL I II Ⅲは総合的な探究の時間

類型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	21	22	23	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語 ② 2		言語文化 ② 2		歴史総合 ② 2			数学Ⅰ ③ 3		数学A ② 2		物理基礎 ② 2		化学基礎 ② 2		体育 ⑦～⑧			保健 ② 1		芸術Ⅰ ② 2		英語コミⅠ ③ 3		論理・表現Ⅰ ② 2		家庭基礎 ② 2		情報Ⅰ ② 2		丹BALⅠ ③～⑦ 1	LHR 1

注)「英語コミ」→「英語コミュニケーション」の略

第2学年

類型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
文系	論理国語		古典探究		地理総合		公共			数学Ⅱ		数学B			体育		保健			英語コミⅡ		発展国語Ⅰ*	生物基礎 ② 2	発展化学*	日本世界史探究 ③ 3		丹BALⅡ	教科横断型探究Ⅰ*				LHR
理系	④ 2		④ 2		② 2		② 2			④ 4		② 2			⑦～⑧ 2		② 1			④ 4		1	生物基礎 ② 2	生物物理 ④ 2	化学 ④ 2			③～⑦ 2	1	1		

理系理科は「生物基礎・生物(4単位前後期)」と「生物基礎(2単位)」+「物理(2単位)」の2グループに分かれる。

第3学年

類型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
文系	論理国語		古典探究		体育			英語コミⅢ			論理・表現Ⅱ		メディア イングリッシュ*	世界史探究	政治・経済		応用理科*		発展国語Ⅱ*		発展数学*		数学C		教科横断型探究Ⅱ*	丹BALⅢ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
																																	③	②	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

理系生徒が「数学Ⅲ」を履修しないで「数学研究」を履修することは可能。

探究に関する学校設定科目と総合的な探究の時間

科目名	内容	具体的な取組
丹BAL I	「探究基礎講座」で自身のスキルを磨く	テキストを利用したミニ探究を通じて、探究の基礎を学び、グループ研究で基礎実践をし、まとめ発表まで段階的に研究を進める。
丹BAL II	「探究応用実践」として個人の研究と充実した探究活動	1年で学んだスキルを活用し、研究テーマを設定して個人研究を進める。問題解決能力を向上させる。
丹BAL III	「探究発表」「自己探究」「教科探究」で自己の目標を実現	探究発表の場で表現スキルを磨く。自己理解を深め、自己表現スキルを磨く。進路実現のため学びを深めたい教科の探究で成果や達成感を実感する。
知の探究 I・II 教科横断型探究 I・II	「愛を探そう」のテーマのもと、教科の枠をこえた学びにより思考力を身につける	年間を通して学びのテーマを設定し、すべての教科の視点から見たテーマについてを学ぶことにより、教科の枠を超えた知識により論理的思考力や、新たな解を創造する思考力を磨く。



生徒が地域の現状や課題をより正確に理解し、生徒自身が疑問や課題を持ち、主体的に探究活動に取り組むことを目的に、様々な外部人材を招聘し、**講演会の実施や探究活動への指導・助言**を行った。

	内容	実施日	講師
1	助言「第2学年中間報告会」	8月28日	丹波市・丹波篠山市教育委員会 小学校・中学校
2	講演「丹波市『ゼロカーボンシティ宣言』」	9月28日	丹波市役所
3	助言「探究Ⅱ 中間発表」 講演「探究的学びの面白さ」	10月5日	京都大学
4	助言「探究Ⅱ 発表会」	12月17日	甲南大学 東京学芸大学
5	助言「地域課題から世界を考える日」 インフルエンザの流行のため、縮小して実施	1月25日	関西学院大学・東京大学 福知山公立大学・地元企業 観光協会・商工会議所 兵庫県立人と自然の博物館
6	助言「知の探究」発表会 講演「あなたの発見を、重要な発見にするために」	3月7日	関西学院大学・福知山公立大学

令和6年1月25日に探究発表会（地域課題から世界を考える日）を県立柏原高等学校で実施した。
インフルエンザの流行のため、縮小して実施

ねらい	○令和5年度の「総合的な探究の時間」における学習成果の発表の場を設定することで、他者からの批評・助言をもとに省察の機会を設け、取組の意義を進化させる。 ○探究活動における学びの質的向上、並びに基礎学力向上をめざし協働して学ぶ生徒の主体的な態度を育成する基盤を共創する。
場所	各教室および会議室
時間	第1部 8:35～10:50 （保護者には第1部から配信） 第2部 11:00～12:35 （外部にも公開）



- 運営指導委員会は2回開催。
- 専門的な知見を有する大学関係者や企業関係者、自治体関係者、地域関係機関等の委員。
- カリキュラムのあり方、コーディネーターを中心とした校内の体制整備、コンソーシアムの構築や連携、中学校等への周知・広報等の進捗状況についての助言、意見交換。
- 委員会の構成員である県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導・助言。

所属・職	備考
関西学院大学 フェロー	学校教育や探究活動に専門的知識を有し、カリキュラム開発等で指導・助言
福知山公立大学 准教授	学校教育に専門的知識を有するとともに、地域連携等で指導・助言
兵庫県立人と自然の博物館 館長	学識経験者 高等学校における地域連携のあり方、探究活動で助言
東京大学大学院 教授	カリキュラム開発など専門的知識をもとに運営指導委員として指導・助言
丹波市観光協会 会長	関係機関の責任者 探究活動の講師 運営指導委員として助言
丹波市ふるさと創造部 政策係長	関係行政機関の職員 探究授業の講師を派遣
兵庫県教育委員会 高校教育課長	管理機関 本事業に対する県独自の支援（探究ルームの整備、指導・助言）

	実施日	実施内容
第1回	8月28日	・新学科設置に向けての現状と課題の共有 ・現在の取組と探究活動について協議
第2回	1月25日	・今年度の取組状況についての報告 ・今後の推進についての指導・助言

- コンソーシアムやOBのつながりを活かした協働体制の構築を目指し、地域人材育成のための探究活動に取り組み、学びの質の向上をめざした。
- 特に令和5年度は、**市役所の各課**や**市内の公共施設**に協力いただき、地域課題解決のための学びを支援いただいた。

所 属	職 名	備 考
丹波市	市 長	関係行政機関として、探究授業における講師を派遣
丹波市教育委員会	教育長	小学校・中学校との連携 職員研修会で支援
丹波県民局	局 長	地域とともにある学校の観点から、探究活動を支援
丹波市商工会議所	会 頭	地域経済を支えるとともに、探究活動の講師を派遣
丹波市観光協会	会 長	地域の観光業の活性化に向けた探究活動講師 運営指導委員
丹波医療センター	院 長	地域の看護師や医療関係者の養成に向けた医療セミナーの講師を派遣
丹波市国際交流協会	会 長	国際交流の支援 交換留学等で協力
福知山公立大学	准教授	新学科設置に向けたカリキュラム開発 運営指導委員
地元NPO団体	探究活動講師	コーディネーターの派遣等、探究活動を支援
兵庫県教育委員会	高校教育課長	管理機関 本事業に対する県独自の支援、指導・助言

学校職員やコンソーシアム等の地域関係者との関係づくりを中心に、新学科設置に向けて教員と協力して活動した。生徒の探究活動を進めるにあたって、地域課題、情報共有、関係機関との調整などを担った。

- 地域や学校の抱える課題の言語化、可視化、共有化
- 研究推進・新学科設立検討チームへの参加、カリキュラム開発にあたっての協力、支援
- 研究推進体制づくりの原案づくり
- 丹BALを中心とした教科科目の参画授業を試験的に実施し、教科間連携を強化
 - 探究授業の打合せで職員間の共通理解、新学科に向けた話し合いを支援

所属		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
NPO法人imagine丹波 より1名	日数	5	4	5	4	5	4	4	4	3	4	5	5
	時間	28	28	35	28	33	28	28	28	21	28	35	35
丹波市市民活動支援センター より1名	日数	4	3	4	4	3	4	4	4	3	3	2	4
	時間	23	20	24	27	27	28	28	25	21	20	14	28
神戸学院大学 より1名	日数	7	8	7	8	5	6	6	5	6	8	3	2
	時間	30	33	35	30	33	25	28	27	27	36	13	21

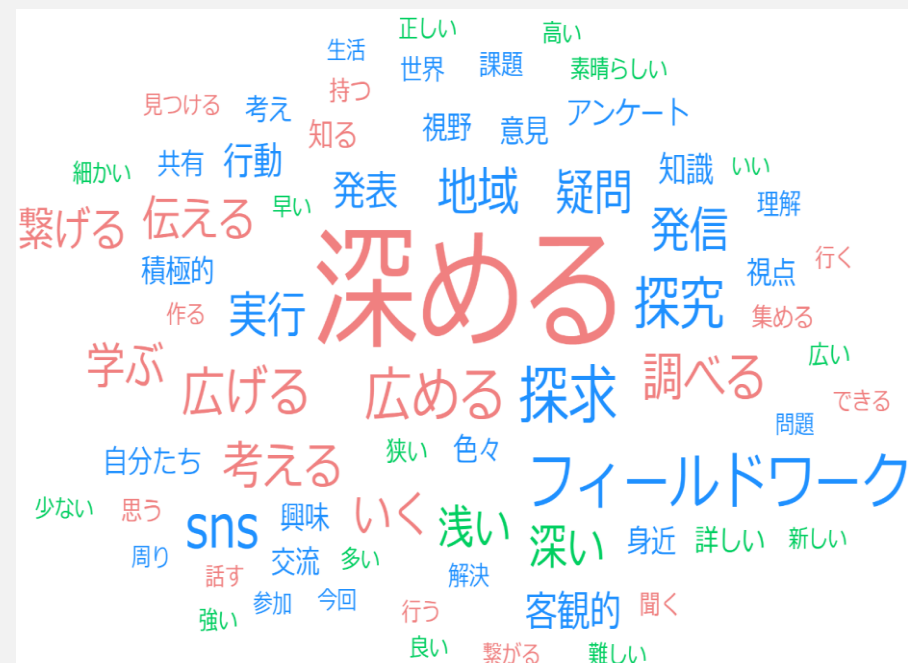
新聞社等への取材依頼、ホームページへの掲載、オンラインの活用等を通じて、生徒の学びの質が高まるような工夫や取組を行った。

(主な発表実績)

- 7月中旬 丹波市内中学校での発表（丹波市内6校）
- 8月1・2・3日 本校オープンハイスクールでの研究発表
- 9月中旬 「校内中間発表会」（個人発表を3週間6時間）（本校）
- 12月17日 「総合的な探究の時間」共創イベントにおける実践発表会（東京学芸大学）
- 12月17日 「甲南大学リサーチフェスタ」（リモート）
- 1月25日 「地域課題から世界を考える日」（本校）
- インフルエンザの流行により、縮小して実施
- 2月10日 「令和5年度兵庫県立高等学校探究活動研究会」（兵庫県）
- 3月7日 「知の探究発表会」（丹波の森公苑）
- 3月末日 探究記録集の作成及び配布



Ⅲ 課題および今後の取組



コンソーシアムの継続的な連携が続く仕組み作り

地域科学探究科の特色ある学びを支えるのは、**コンソーシアムを構築する機関等との継続的な連携**が続く仕組みである。国の指定期間内で、それぞれの機関と更なる連携・協働を行い、学校内の学びから学校外での学びへと発展できる「地域全体の学び」となるよう仕組みを構築する。

コーディネーター機能の維持

指定期間後のコーディネーター機能の維持については、

- ① **コーディネーター加配に関する予算の確保**
- ② **教員へのコーディネーター機能の移行**
- ③ **企業協力による人員配置** 等の方策を含めて、コーディネーターの望ましいあり方について指定期間中に検討し、方向性を決定する。

地元自治体の「地域おこし協力隊」が、コーディネーターとして市内の高等学校と連携して活動することも視野に入りたい。